

(6) 2017年(平成29年) 7月20日(木曜日)

ピリーという犯罪人がいました。彼の人生は、ひどい悪事を重ねた人生でした。物を盗んだり、人にも、ひどい危害を加えた歩みだったのです。彼は逮捕され、判決によって死刑囚となりました。刑務所に収監されることになったのです。

ところが、そんな彼が、その刑務所の中で、イエス・キリストの十字架を信じる者となりました。ピリーは、人の罪が赦されるために、身代わりに十字架に架った神の御子キリストを信じたのです。それは、神様から提供された、完全な赦しの十字架でした。彼は、自分のひどい過去を思い出しつつ、涙を持って、全ての過去を深く悔い改めました。彼は、そうやってクリスチャンになりました。

その彼は、刑務所の中で、キリストの恵みを、人々に伝え始めたのです。自分の体験を語り始めたわけです。そして、どういふ訳か、多くの囚人仲間が、彼と同じように、イエス・キリストに捉え

は電気椅子によって、執行を受けることになっていたので、米国では、死刑の執行の時に、目撃者が呼ばれます。特に、死刑囚から被害にあつた人々が集うケースも多いのです。ピリーの死刑の目撃者

南加キリスト教会連合

最後の赦し

田辺 豊

に、ある願いを出しました。それは、彼女にも、何とか、イエス・キリストの十字架を信じてほしいので、アメージング・グレースという歌を、彼女のために、最後まで歌わせてほしいという願いでした。

性を見つめていました。彼女は、やがて、その歌を聞きながら、感極まって泣き始めたそうです。やがて、チャプレンは、その女性と連絡を取ることができ、彼女も、教会で罪を悔い改めて、キリストの十字架を信じたことになりました。それは、ピリーの精いっぱい

られました。その刑務所では、自分のひどい人生を悔い改めて、クリスチャンになる人々が多く起こされました。しかし、そんな最中にも拘わらず、ピリーの死刑の執行が近づいてきました。ピリー

の中には、ピリーをとてんんでいる、ある女性も含まれていました。ピリーは、その女性が、目撃者として来ることを知りました。それを知ったピリーは、刑に立ち会ってくれる牧師のチャプレン

に届くように、必死で歌い出したのです。「驚くばかりの恵みなりき、この身の汚れを知れるわれに」と歌い続けました。やがて、カーテンが開き、刑の執行の最後まで、ピリーは歌い続けました。それは、とても劇的でした。チャプレンは、ピリーが歌っていた時、その相手の女

（ミッションバレーフリーメソジスト教会牧師）